

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	11 月	21 日	記入者	神野一美
調査者名	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	円覚寺のギンモクセイの巨樹				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )
指定年月日	1954年(昭和29)3月2日				
所在地	吉野郡東吉野村木津川 円覚寺境内				
所有者 管理者	円覚寺				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) ギンモクセイ			(樹齢) 推定350年	
案内板の状況	有り(県教育委員会の説明板有り)				
公開	自由(寺の境内にあるが、山門も塀もないため)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ( )				
当面の課題	寺の境内にあるため、特になし				
今後の課題	高さ10mで、地上2.3mで五分岐し、更に0.5mのところまで九分岐する極めて美しい樹形をなす(説明板より)とあるように、高見川の道路沿いで遠くからでもすぐにわかる位置にある。苔むした幹の横から若木が出ているように、世代交代がうまくいき今後も芳香を楽しませてくれることを願います。				
その他 (由緒など)	円覚寺は、1630年(寛永6)2月に建立の曹洞宗の寺院。本尊は釈迦牟尼仏座像。このギンモクセイの推定樹齢350年が正確かどうかは不明ながら、本寺院の創建当初からあったことも考えられる。江戸時代から、その芳香が遠方まで漂っていたという伝承が残っていると説明板にあるように、花の時期に訪れてキンモクセイとの違いを感じてみたいと思いました。				
コメント	モクセイと聞くとキンモクセイをイメージする方が多いと思われませんが、モクセイの基本種はギンモクセイで、ギンモクセイからの変種がキンモクセイです。中国原産。中国では漢字表記が「桂」。日本の桂とは別もの。日本での漢字表記は「木犀」と書くが、樹皮が動物の犀の皮膚に似ていることによっている。10月ごろには白い花が咲き、キンモクセイほどではないが芳香があり、垣根・公園・街路樹などに多く用いられている。説明板に「わが国のものは結実しない」とあるが、全国の情報を見ると、実のなるものも存在しているようです。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	11 月	21 日	記入者	神野一美	
調査者名	亀田	神野	鈴木	東辻	前田	

文化財名	円覚寺のギンモクセイの巨樹
------	---------------

説明板	高見川から見た円覚寺とギンモクセイ
-----	-------------------



ギンモクセイ全形

高さ2.3mで五分岐、その上0.5mで九分岐



ギンモクセイ樹皮

ギンモクセイの葉

